

須々田先生を偲んで

平成25年2月23日（土）

於：カフェテリアグリーン

東京農業大学農友会農村調査部・竹馬会

須々田先生を偲ぶ会 次第

と き：平成25年2月23日（土）

ところ：東京農業大学カフェテリアグリーン食堂

- | | |
|-------------|---------------------|
| 13:30 | 記念撮影、黙祷（信戸） |
| 13:31～13:40 | 永井名誉顧問のあいさつ |
| 13:40～13:50 | 献 杯(友田部長) |
| 13:55～ | 歓談 |
| 14:30～14:40 | 在りし日を偲んで（写真スライドショー） |
| 14:40～14:50 | ゆかりの方々からのお言葉 |
| 14:50～15:00 | ご遺族からのごあいさつ |
| | ご歓談 |
| 15:20～15:30 | 閉会のあいさつ（小澤幹事） |
| 15:40～ | 学歌斉唱 |

学 歌

常磐の松風 みどりに吹きて
本草の色さへ 爽けき岡辺
厚きみ恵 いたゞきつゝも
基礎かたし われらが学舎

農村調査部のはじまり

- 昭和31年
 - 農業経済学科の社会科学研究会を母体に、講演部・村の会部とともに活動開始。
- 昭和33年
 - 農村調査部創部。初代部長 我妻東策先生の補佐として指導に当たる。
- 昭和37年
 - 第2代部長 須々田黎吉先生就任。

我妻東策先生とともに



須々田先生

- 昭和26年
 - 東京農業大学農学部農業経済学科入学
- 我妻先生のご活躍
 - 日本は技術革新による経済発展に
 - もはや戦後ではない
 - 農政学者として「農政時評」を寄稿
 - 学科長、農学部長、法人理事。農大のボス

我妻東策先生の思いを受けて

● 昭和30年

- 東京農業大学農学部
農業経済学科卒業

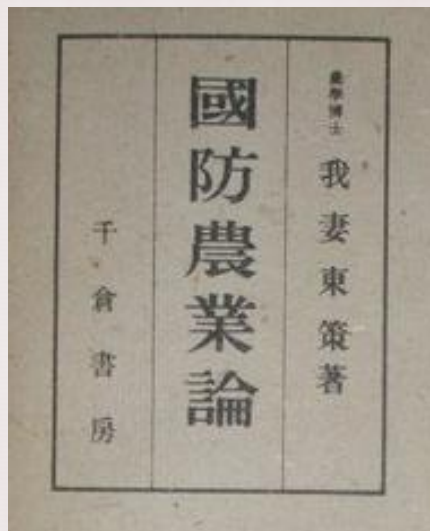
◆ 学生がわたしをこわがらないよう
では、私がその任を果たしていな
いことだ。

● 昭和32年

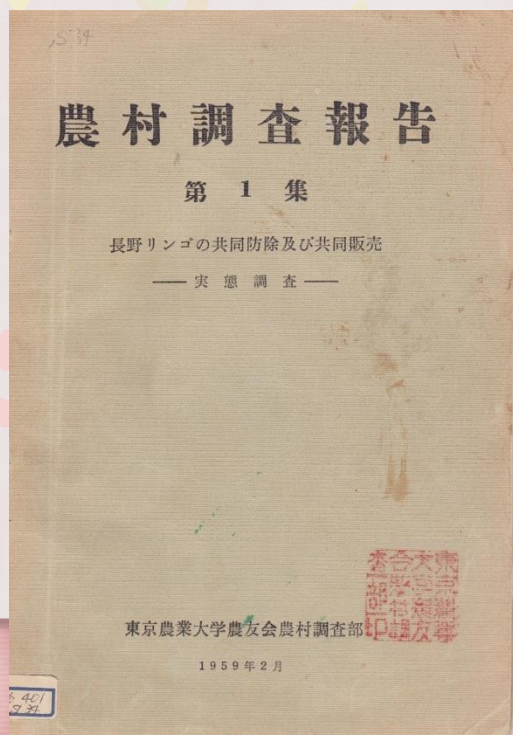
- 3月 修士課程修了
- 4月 農大助手
兼農村調査部補佐

● 昭和37年

- 専任講師に昇格
- 農村調査部部長



須々田先生に課せられた 農村調査部補佐としての任務



1 調査テーマと調査地区を
選定して、現地調査に行く
こと。

2 調査の結果を報告書にと
りまとめること。

※その後、活動結果を収穫祭
の展示会で発表することと
なる。

農村調査部の第1回現地調査へ同行 (昭和33年11月15、16日)

序 文

果実の生産は戦後急速な発展をとり、今では過剰生産の傾向にある。この報告書はこのような現実のなかで、さいきん長足の進歩をとげた長野りんごの共同販売及び共同防除の実態について、昨年11月15、16日の2日間、東京農業大学農友会農村調査部によって行われた調査の結果をとりまとめたものである。

調査の対象は、長野県上高井郡小布施町りんご組合、共同防除組合及び隣町の上下内町豊野町蟹沢部落の出荷組合である。

調査に参加した者は農村調査部員である学生10名と、本大学農業経済学科助手須々田黎吉である。

調査の結果は、須々田助手の指導のもとに次のように分担して執筆した。

第1章 桜井滋樹（農経2年）、検校秀行（同3年）

第2章 宮沢広次（農経3年）、奥野雅夫（同3年）

第3章 三上正之助（農経3年）、清水良次（同3年）

第4章 子安秀雄（農経2年）、田村恵宥（同3年）

第5章 石沢博行（農経2年）、杉浦壮典（同3年）

この調査は、時間的にも制約され、文字通りかけ足で行ったため資料収集上おこりの不備がある。また報告書にまとめるに当たっても、整理上の未熟さ、基礎知識の欠如等からおこりの欠点がある。

最後に、この調査に当って懇切な援助を与えられた長野県庁特産課、りんご組合長平松幸五氏、出荷組合長青木義司氏、須賀園芸分場勤務の青木武彦君に深く謝意を表するものである。

昭和34年2月3日

東京農業大学農友会農村調査部長

我 妻 東 策

長野県上高井郡小布施町

リンゴの共同防除及び共同販売

調査参加者

農村調査部員10名

第1章 桜井滋樹（農経2年）、検校秀行（同3年）

第2章 宮沢広次（農経3年）、奥野雅夫（同3年）

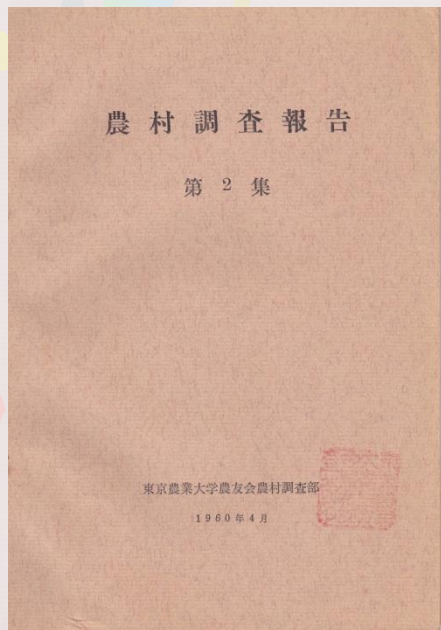
第3章 三上正之助（農経3年）、清水良次（同3年）

第4章 子安秀雄（農経2年）、田村恵宥（同3年）

第5章 石沢博行（農経2年）、杉浦壮典（同3年）

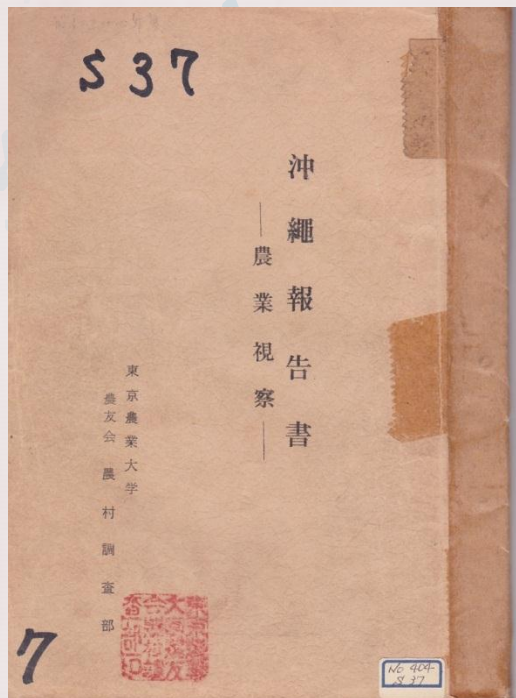
農業経済学科助手須々田黎吉

農村調査部の第2回現地調査



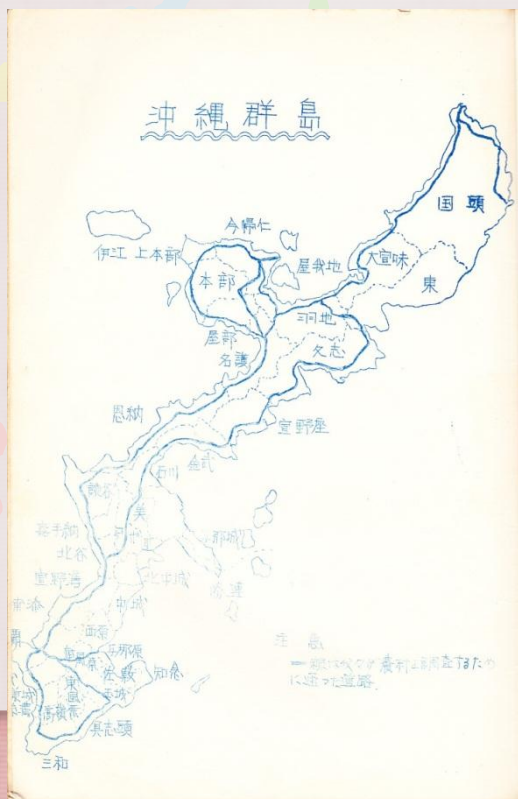
- 神奈川県相模原市（畜産業）
 - 昭和34年11月17から20日までの4日間、13名参加
 - 調査対象農家に宿泊し、家畜の世話を手伝いながら、この調査を行う
 - 須々田黎吉先生が指導
- 執筆担当者
 - 第1章 永井浩一、荒野千恵人
 - 第2章 子安秀雄、中杉元義
 - 第3章 岡根 武、志賀浩一
 - 第4章 桜井滋樹、小沢 等
- 神奈川県平塚市（梨）
 - 昭和34年9月調査
 - 執筆担当 小沢清文

農村調査部の第3回現地調査へ同行



- 東京農業大学農友会農村調査部
“沖縄調査団”
- 目的 現在の沖縄農村の実態視察調査
- 期間 昭和37年7月14日（土）～7月28日
- 調査団
 - 団長 須々田 黎吉 （クラブ顧問）
 - 幹事 井上 隆弘 （経済3年）
 - 会計 志賀 浩一 （経済4年）
 - 団員 伊沢 宏彌 （畜産3年）
 - 宮田 和也 （経済3年）
 - 伊集院 健吉 （経済3年）
 - 田中 英二 （経済2年）
 - 小岩 静夫 （経済1年）

調査地域と行程



編集後記から

- 現地調査終了後（昭和37年7月）、1年経っても報告書が完成しなかった。
- 翌年の夏の暑さに、団員が去年の暑く、苦しい沖縄の調査を思い出す。
- 報告書を作るため、編集団を結成し夏休みに完成させた。
- 渡航手続きや現地でお世話になった農大OBや琉球大学の先生に感謝。

⇒ こうした、学生の甘えと、それを戒めてくれ、温かく見守っていただいた須々田先生がいらっしゃったのではないかと、想像しました。

-
- 1 調査テーマと調査地区を選定して、現地調査に行くこと。
 - 2 調査の結果を報告書にとりまとめること。
 - 3 活動結果を収穫祭の展示会で発表すること。

- この3つをよき伝統として守り続けてきたことをわたしは密かに誇りに思っている。
- むろん、それは部員の主導で実施されてきたことであった。

農村調査部 元部長 須々田黎吉
～農村調査部創部50周年に寄せて～

須々田先生との思い出



農村調査部創部30周年記念



東京農業大学 農友会農村調査部 創部30周年記念 S.62.10.31



農村調査部部長交代式（平成5年）



農村調査部創部50周年記念（平成18年）



43年ぶりに当時の現地調査地へ

川房部落訪問実習農家・実習生名簿

東京農業大学・農村調査部

「実習期間 昭和36年7月14日から19日まで」

実 習 農 家	実 習 生
都 甲 昌 彦 様方◎ 清 子 様 ◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字東畑 17 Tel 0244-44-4097	松 尾(副島)武 博 ◎ 〒849-2305 佐賀県杵島郡山内町宮野 23131 Tel 0954-45-4002 梶 野 稔 〒220-0202 神奈川県津久井郡津久井町太井 244 Tel 042-
門 馬 学 様方◎ (先代 英 雄様) 静 江 様 ◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字下原 31 Tel 0244-44-4861	伊 澤 宏 爾 ◎ 〒395-0821 長野県飯田市松尾新井 6118 Tel 0265-22-4608 森 田 雅 弘 〒360-0841 埼玉県熊谷市新堀 364 Tel 048-532-2025
門 馬 繁 行 様方 (先代 一 郎様) 郁 子 様◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字下原 19 Tel 0244-44-4857	佐々木 靖 〒207-0016 東京都東大和市仲原 1-2-9 Tel 042-562-3624
黒 木 敏 彦 様方 (先代 朝 安様) ト シ 様◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字小森 239 Tel 0244-44-4053	佐 藤 洋 司 ◎ 〒389-0111 長野県軽井沢町長倉 2016-3 Tel 0267-42-2118 本 多(杉村)道 子 ◎ 〒173-0014 東京都板橋区大山東町 44-1 Tel 03-3961-0264 谷 中(宇津野)経 子 ◎ 〒300-2706 茨城県結城郡石下町新石下 1019-1 Tel 0297-42-2700
佐々木 清 明 様方◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字四ツ栗 87 Tel 0244-44-5061	寺 本 和 夫 ◎ 〒359-0024 埼玉県所沢市下安松 50-132 Tel 042-944-2712 伊集院 健 吉 ◎ 〒891-9116 鹿児島県大島郡泊町上手々知名 336 Tel 0997-92-1085
志 賀 浩 一 様方◎ (先代 浩 作様) ヨ ウ 様◎ 〒979-2164 福島県相馬郡小高町川房字原田 45 Tel 0244-44-4097	中 島(大橋)和 子 〒215-0012 神奈川県川崎市麻生区東百合丘 1-25-10 Tel 044-955-4496 尚 久美子 〒104-0045 東京都中央区築地 7-4-4-403 Tel 03-3543-5754 沖 野(田崎)ヒデ子 〒489-0861 愛知県瀬戸市八幡台 8-200 Tel 0561-84-1465
(当時の調査部顧問)	須々田 黎 吉 〒195-0062 東京都町田市大蔵町 202 Tel 042-734-0587
(当時の特別参加者)	北 條 文次郎 〒321-0341 栃木県宇都宮市古賀志町 402 Tel 028-652-2727
(再度訪問時の特別参加者)	永 井 宏 一 ◎ 〒331-0804 埼玉県さいたま市北区土呂町 1-35-14 Tel 048-663-4764

43年ぶり再度訪問 平成15年7月19日実施 ◎印は当日の出席・参加者

平成15年7月19日
福島県小高町川房



日報随筆

伊澤宏爾

280



熱く農業を語る古老と訪問者

今年の七月、福島県浜通りの静かな田舎町、相馬郡小高町川房を四十三年ぶりに訪ねた。

「川房」という地名は、私にとって人生の処方を身体で教えてくれた「教導の地」として重々響き、心の中で四十三年間大切に

てきた地名である。

「農学は実学だ、農業は机の上の空論では通じない。なまじり、受け売りの論理をかきこいた農学徒たちが、サケノの実地学習として農村調査と農業実習をやらせてもらった地である。

四十三年ぶりに「教

導の地」を訪ねた時、その土の匂いと温もりは、時を越えず実習当時(グムスリッブ)と、様々な思いが蘇ってきた。

昭和三十一年代中頃の農村事情は、農業基本法が制定され、選択的規模拡大の方向で活力ある日本農業を自指するところであった。しかし、農業基本法が示す指針のようには事は進まない。

そして徐々に農業社会から生産工業社会に移行する中で、農村も大きく変貌していった。

川房地区は決して豊かな農村とは言えず、「寒村」といった表現があてはまっていた。お世話になった農家は数頭の乳牛と水田に畑作の複合経営農家であり、その集落全体も同じような経営形態の農家が多く、ごく一般的に集落であった。

当時の飯田下伊那地方も同じような農村事情であり、私自身も農家の生まれであった。農家調査や簡単な農業経営分析は容易であった気がする。しかし、今回四十三年ぶりに再度訪ねてみて、当時の調査では表面化しなかつた住民の農業に対する心と向き、川房地区の調査・実

を招いた。核家族化、少子化、そして高齢化社会の到来など、家族形態にも変化をもたらしている。経済の国際化の波もまた、農業と農村に様々な社会的変化と変革を生じさせ、特に、農業の担い手の高齢化と後継者不足は、今や日本農業の深刻な課題である。

川房地区の調査・実

豊かさの母体は農村から

— 四十三年ぶりに「教導の地」を訪ねて —

いづれ温もりをひひしと感したのである。

日本は、高度経済成長期を経て、衣・食・住あらゆる面で生活水準は向上し、テレビ・自動車・電話は一人一台の時代となり、農業社会から産業社会へと、そして情報化社会へと突き進んできた。この過程で都市の雇用人口が増え、農村から若者の流失が進み、過疎化

を招いた。核家族化、少子化、そして高齢化社会の到来など、家族形態にも変化をもたらしている。経済の国際化の波もまた、農業と農村に様々な社会的変化と変革を生じさせ、特に、農業の担い手の高齢化と後継者不足は、今や日本農業の深刻な課題である。

川房地区の調査・実

習でお世話になった、当時、小学校低学年だった男子たちは、今やみな五十路のいい親父になって農家を継いでいる。今の時代、この後継者の存在は何かの時代と興味を持っていた。それは決して豊かで特色ある魅力的農村に変貌したのではない、わが国農村特有の経営をより前進させた

だまっていた。当時、農業労働力の中心をなし育てに追われながら、自家を支え、地味な労働を重む七歳代、十歳代となつていて、今や親父として存続を誇示する者があつた。そして、農業で生きてきたという自負とに裏打ちされたまな確

信と自信のもと、往時そのままだに熱く農業を語ってくれた。

その話の節々には、社会構造の激しい変化の中で自分たちの郷をしっかりと見守り、農業の持つ重要な意義と基礎となる農村のあり方を現実の社会情勢に調和させ、適合させる努力をしてきた集落の人たちの、並々ならぬ

社会に欠かせない重要な役割を持っている。農業とは、人間社会の基本産業である。

また老婦の一人は、最近の殺伐とした事件に鑑み、物質面の豊かさや腹饜に心の貧困が人間の暗部をさらけ出している。人間としての心を育み、癒してくれる場所を見失っているように思うのは年寄りの思い過るのか。

土の匂いと温もり、稲穂を渡る風の音、夏の香りの虫の鳴き声など、幼い頃の成長過程で、自然の営みの中から教えられる感動を受けることは実に多い。農村の環境は子供たちの感性と情懷を間違いなく育てていることを、私たちは長年汗と経験から確信している。

話をもっともともとと話を決して急ぐことなく自然体の中で人間らしく自然と共生した集落の人々の生き方、そして次世代へのつなぎ役に徹する姿勢を見るのができた。

古老・老婦と称される存在感を持ち、かけがえのない財産を持った農家が舞台であり主役である、ということを確認した「教導の地」への旅であった。

先鋒として切磋琢磨し、あの「寒村」と言われた川房地区を「歓

村」に変えてきたのである。

これからの本当の豊かさは母体は自然とふるさとであり、そこには爺ちゃん婆ちゃんが存在感を持ち、かけがえのない財産を持った農村が舞台であり主役である、ということを確認した「教導の地」への旅であった。

「歓村」に変貌した川房地区

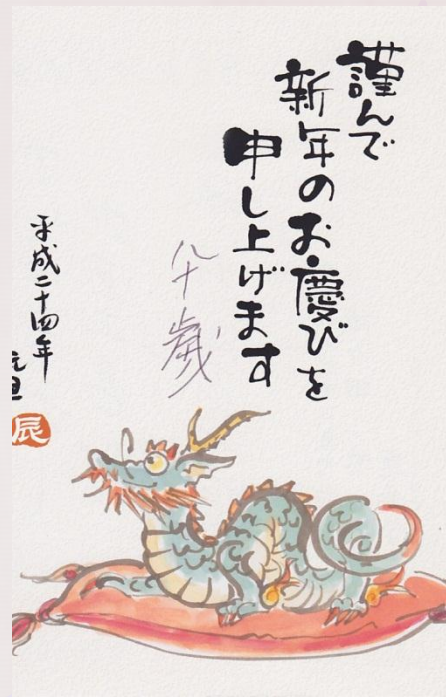
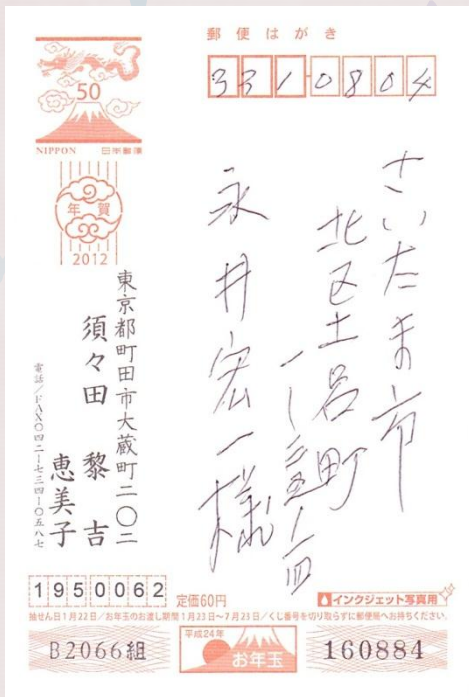
11

旧友との再会

(平成21年11月14日於：品川ラフォーレホテル)



最後の年賀状



おわりに

このスライドを作るに当たり、諸先輩方からたくさんのメッセージや写真を提供していただきました。

先生は、初期の調査報告書作成についてご指導いただき、また部の存続の危機には、OB/OGとともにご尽力されました。

あまり多くを語らず、学生主導の部活動運営を信念に、ご指導にいただいた須々田黎吉先生に対し深く感謝申し上げます。

ご冥福をお祈り申し上げます。

須々田先生に贈る言葉

～本日参加できなかった方々からも
メッセージをいただきました～

昭和26 中島 常雄

謹んでお悔やみ申し上げます。

昭和35 三上 上之助

私の入学時は木造二階建ての校舎でした。入学時の担任が須々田先生でこの時は農業経済学科の助手先生でした。一年の時初めて長野県小布施町農協の視察調査に同行しました。これが農村調査部第一回目調査だと思います。

又先生が青森県庁よりの依頼で林檎資料の調査をされた時、上野国会図書館の一室を長期に亘って借りられ資料整理に通ったことの忘れることの出来ない思い出です。先生のご冥福と農村調査部の発展を祈っております。出席出来ずすみません。

昭和37 本多 道子

先生の逝去を心から謹んで哀悼の意を表します。平成21年11月グリンピースの会を東京で開催された際卒業以来46年ぶりにお会いしました。脳の病気、心臓の病気も手術されてもたくましくお元気で召されていることを聞き喜んでいましたが残念です。

昭和37 永井 宏一

偲ぶ会のご案内ありがとうございます。当日は運営よろしく願いいたします。

須々田先生に贈る言葉

昭和38 寺本 和夫

"多くありすぎて何から書いていいのかわかりません。学生時代は先生と一緒に遊び勉強させていただきました。農村調査部ではほとんど一緒しました。一回だけ私にパスポートが出ず沖縄に行けなかったのが残念です。

私が学長賞を頂けたのは先生のご指導があつてのたまものだとおもっています。

先生から最後に電報をいただいたのは3年前「カラオケにでも行こう」とお誘いをうけたのですが、私は歌が下手なのでカラオケはダメです。とお断りをしましたら。先生は「君は歌が下手か、それではダメだな。」と仰ったのがまだ耳に残っています。"

昭和38年 志賀 浩一

御苦勞様です。盛会をお祈りします。農村調査部として宿泊調査に一諸してくれた事。37年~40年の数名でグループをつくっている、その会に出席して頂き懇談したこと。

昭和38 谷中 経子

短栄でしたので2年間でしたが、先生にはお世話様になりありがとうございます。

欠席で申し訳ありませんが、1年生の時、福島の今の南相馬市小高区の先輩の志賀さんの地区へ泊りがけの農調部の研修に行きましたのが、何よりの思い出で懐かしいです。

永井さんによろしくお伝えください。

昭和38 伊澤 宏爾

"昭和36年沖縄調査を実施しました。当時はパスポートが必要な時でした。厳しい暑さの中で全島中調査で巡りました。特に農大卒の先輩方のご協力により、大変充実した調査ができました。

北海道でヒグマに遭遇した話は、やんちゃな先生の一面を彷彿させてくれたお話でした。"

須々田先生に贈る言葉

昭和40 武田 至功

" まずもって先生のご冥福をお祈り申し上げます。

私が入部したのは昭和37年6月、農学科なので直接講義を受けませんでしたが、部の活動では、いつも笑顔でおおらか、熱弁で指導してくださった。

卒業でお別れする時は、一人ひとりを笑顔で送っていただいたこと、つい先のように懐かしく思い出しております。"

昭和41 澤野 則子

"訃報は新聞にて知っておりました。

先生のご冥福をお祈りいたします。"

昭和43 大津 茂男

須々田先生にはゼミ、農村調査部、さらにご自宅に伺うなど、公私ともにお世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

昭和44 河村 文孝

収穫祭での展示発表にご指導いただきました。

昭和44 窪田 昭彦

新潟平野南町、愛媛県のみかん農家など視察研修会や、富士農場での思い出が浮かびます。またゼミが同じだったので授業を馬事公苑の近くの喫茶店で行ったことなど多くの思い出ありました。ご冥福をお祈りもうしあげます。

須々田先生に贈る言葉

昭和45 竹内 佳晴

確か農業史の先生だったと思います。偲ぶ会が盛会になることを祈念します。

昭和45 杉本 明雄

皆様によろしくお伝えください。

昭和45 日暮 賢司

私が農調にいた頃、須々田先生は専任講師で若かった。視察先の河の土手をかけ上がる競争に先生が加わって盛り上がった。先生がなんの連絡もなく2～3人の生徒を引き連れて私の下宿に来られた時は驚きました。

昭和45 森野 進

大変お世話になりました。心よりお悔み申し上げます。

昭和45 宮崎 賢二郎

私は都合により欠席させていただきます。偲ぶ会の経費として些少ですが5千円を同封いたします。

昭和46 山村 猛

謹んでお悔やみ申し上げます。

昭和47 小澤 善喜

昭和44年から4年間、例会や懇親会に何度か出席し、適切なるご助言やアドバイスなどをいただいたことが懐かしく思い出されます。

須々田先生に贈る言葉

昭和47 秋山春男

四年次農業史の講義受講、先生自ら津軽モッコスと自負されていた。

昭和48 小林 芳文

先生には農業史を教わってました。あのころは先生も若くバリバリ、そんなイメージしかありません。

昭和48 谷口 幸一

" 農業経済学科で「農業史」の講義を受けました。難解な「農書」片手に、講義では「学問とは何か」を語っておられました。常に「原書に接しなさい！」と。先生は農大一高の正門近くにお住まいがありました。ある日の休日、近くに住んでいた私の4畳半の下宿にふらりと立ち寄られ、書棚にある書物を見ながら、もっと歴史的な専門書を読みなさいと言われ、友人と私に熱い農学論を語ってくださいました。

また神田神保町のある農業書専門古書店でばったり出会い、「何を探しているの？」と柔和な眼差しで声をかけていただいたことも印象に残っています。先生の研究は「史料」に基づく実証的研究や横井時敬博士に関する研究が記憶に残っています。当時、農業経済学科は須々田先生をはじめ諸先生方熱き思いが溢れ、農村調査部の仲間と教室の最前列を陣取っていたことが若い日の思い出です。農村調査部の皆様のご活躍を九州のはてからお祈りいたします。“

昭和50 田嶋 久実

須々田先生は独自の世界を持った学生にはやさしく、親しみやすい先生でした。

須々田先生に贈る言葉

昭和50 田嶋 久実

須々田先生は独自の世界を持った学生にはやさしく、親しみやすい先生でした。

昭和52 下向 洋子

直接お話しさせていただいておりませんが、独特な話し方が記憶に残っております。

昭和52 山口 登志美

ご冥福をお祈り申し上げます。

昭和54 森 二士夫

偲ぶ会に出席できず残念です。農調で会計をしていました。須々田部長には会計のことでいろいろ相談にのっていただきました。学生には自由な発想を認めていただきました。寡黙な部長でありましたが、とても印象に残っています。

昭和54 渡辺 栄

郵送料として1千円送ります。

昭和58 高橋 祥子

須々田先生は一度だけ追いコンに参加して下さって、しゃぶしゃぶの鍋で嬉しそうにお刺身をしゃぶしゃぶしていたお姿が思い浮かびます。

須々田先生に贈る言葉

昭和59 織田 充裕

" 直接お話しさせて頂いたことはありませんが、在学中、活動を温かく見守っていただいたことです。"

昭和63 高柳 和直

" 私たちの代は、同期が2名で4年生が抜けた3年生のときは、4～5名で活動しており、今後の農調の存続が危ぶまれる時代でした。

そのような時、卒業した諸先輩方のご支援もあり、創部30周年記念行事を開催することになりました。

記念行事にあたり、講演会を行うことになりましたが、私たちだけでは探すこともできなかったことから、須々田先生に相談しました。

先生は快く応じてくださり、東大の佐伯先生を紹介してくださいました。

部員数が少ない中、須々田先生のおかげをもちまして、創部30周年を成功裏に終えることができました。

創部30周年記念行事を契機として、竹馬会も創設され農調の新たな発展の基盤となりましたこと、須々田先生には感謝しております。"

平成02 重松 良成

当時の部長でした。印鑑頂くのに時間がかかったのを覚えています。

須々田先生に贈る言葉

平成03 高田 智

謹んでお悔やみ申し上げます。

歴代部員の比較的若年世代のなかでは、直接お世話になった一人だと思います。部室でのコンパにお誘いした時には、わざわざワインを持ってきたいただき、皆で美味しく杯を交わしたことです。沖縄宮古島の調査実習においては、遠路はるばる自らおいでくださり、我々現役部員を激励してくださったこと等々、部員数の少ない時期にありがたいご支援を賜りました。学内で体調を崩された折に、御家族に御連絡をさしあげたこともあって、晩年に満足な御挨拶が出来なかったことが悔やまれます。心より、御冥福をお祈り申し上げます。

平成06 井上 恵和

研究室に文書の印をもらいに行く時は非常に緊張したもので、普段接触がなかったもので、恐れ多いとい意識がありました。そのわずかな機会に、的確な意見やアドバイスをいただくとともに、農調の自主的な活動を見守ってくださっていたことかと思います。

平成08 信戸 一利

謹んでお悔やみ申し上げます。

平成14 山崎 勝裕

直接の繋がりは薄いのですが、かけがえのない方を失った失った悲しみは竹馬会のメンバーとして心に刺さります。

平成15 蘇木 博子

"遠方のため欠席でお願いします。先生のご冥福をお祈りしております。"

須々田先生に贈る言葉

平成16 藤本 好彦

農政学研究室で大田市場の調査に伺い、帰りに室員へのお土産にヤシの実を買って持って帰り、包丁で切ったけど切れなかったので、包丁を焼いて何回か切るうちにやっと2つに割れました。みんなで歓声を上げているところに先生が笑いながら入ってきて静肅とご指導をいただいたのを覚えています。

平成19 広瀬 由里

須々田先生のことは今回のお便りで初めて知りました。

偉大な師であり、農村調査部の活動の礎を築かれた方だったのだなどお見受けいたしました。

深くご冥福をお祈り申し上げます。“

元農大図書館職員 出町 明

晩年、須々田先生が農大図書館に来館された時対応し、その時、いろいろなお話（農大の歴史や古い資料など）をうかがいました。大変熱心にお話しされ、月に何度も来館されました。先生が最後に情熱を燃やされたことがありました。

以上

農

東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE